

久保井インキ 電子部品用UVインキが好調

旗艦ブランド「UVエース」、進化実証

久保井インキ(株)大阪府東成区東今里、久保井伸輔社長、☎06・6973・6211)は現在、電子部品のマーキング用途に向けたUVインキを拡充。世界トップシェアを誇る電子部品メーカーをはじめ、大手電機メーカーなどにも同インキが採用されている。

同社はシール・ラベル印刷向けに特化したUVインキ「UVエース」シリーズを提供している。1976年のUVエース誕生から45年を迎える今年2月には、抗菌効果を付与する「UVエースK1抗菌インキ」を開発。衛生意識に対する社会の変化に呼応してUVエースの従来品と同様の発色、密着性、硬化性を実装した進化形を上市した。電子部品のマーキング用インキも、同様にUVエース製品群の一つ。同インキが想定する印字

対象は、アルミ電解コンデンサーやタンタルコンデンサー、各種フィルムコンデンサーなどの各種コンデンサー類。IC(集積回路)のマーキングにも用いられ、これら電子部品に必要ならぬ耐熱性、耐溶剤性、接着性といった機能を実装している。また電子部品に使用されることから、同インキは低ハロゲンのほか「RoHS」や「REACH」「同SVHC適合」といった規制にも対応した仕様となっている。

電子部品用UVインキとして「UVエースZNA/FB2」をはじめとする4種類を展開。「電子部品」へのマーキング用途で使用されるのは9割以上が黒(同社)としながらも、白や藍もそろえるという。

久保井伸輔社長コメント
電子部品用UVインキに

関しては、通電に伴う耐熱性が要る。また密着性や耐候性のほか、薬品洗浄の工程もあるため耐溶剤も要求される。これら製品レベルに加え、RoHSやREACHなどの基準に準拠していることが求められる。

これら電子部品向けインキは品質要求が多いことに加え、会社の環境対応、品質管理の体制確立や各種証明書類の発行への対応が求められる。環境や品質への対応はISOのレベルではなく、IATF16949という自動車産業向けマネジメントシステムに準じた

レベルを要求される。

また証明書類等はSDS、IMDSの提出はもとより毎年のICP分析による化学物質の不含有証明、毎年改定されるSVHCにケムシエルパ、対象物質が数千にのぼる化学物質の含有調査も、インキの色ごとに0~100ppm単位で調査のうえ提出せねばならず、3カ月で更新される場合もあるため、専門人員を配置して対応しても追いつかない程の業務量がある。

これら電子部品向け品質業務の経験が、ラベル用インキの品質管理に大いに役立っていること

とはいっても、この種のインキは約20年前から提供してきた。ただここまで振

コンデンサーなど電子部品マーキング用に採用(画像はイメージ)

返ると、仕様書はもうも何に使われているのかは教えてもらえなかったり、問い合わせがあつてサンプルを渡すもその後なしのつぶてだったり。もう少し情報を開示してもらえるところにも順応して設計しやすいのだが、なかなか実態を捉えにくい特殊な用途のインキだった。

それでも今日までオーダーが途切れないのは、当社インキに少なからず信頼を置いていただけている証左だろう。現在、特定分野の世界トップシェアを誇る企業や、世界で展開する大手電機メーカーでも同インキを採用いただいている。

これも、品質要求の高いブランドオーナーを相手になるラベル印刷会社各位に、日々鍛えられてきたからこそ。耐候性を高めるならこれ、溶剤への耐性を強めるならこう、と単に原料を投じれば狙った機能を発現できる訳ではない。長年培ってきた知見と勘所を電子部品用UVインキの設計開発に転用した結果、当社のような中小企業も超大手企業相手に必要とされるように。今度は当該分野で得たものを、ラベル業界に何かの形で還元してきた。

